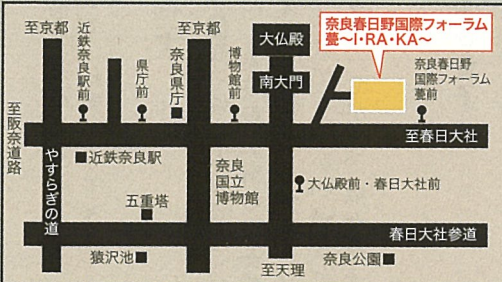


なら燈花会能

競い合う美と力

令和4年
8月6日 土

奈良春日野国際フォーラム
麓～I・RA・KA～
【能楽ホール】



開 場…12:30 ◎全席自由席
開 演…13:30
入 場 料…前売券 一般 5,000円 学生 2,000円
当日券 一般 5,500円 学生 2,500円

切符販売 令和4年6月7日(火)販売開始

チケット及び公演についてのお問合せ
奈良能 事務局
TEL : 0742-24-5171 (不在時留守電対応)
メール : npohoujin.naranoh@gmail.com

●チケット委託販売
奈良春日野国際フォーラム 麓 … ☎0742-27-2630
奈良県文化会館 …………… ☎0742-22-0200
チケットぴあ:Pコード **512516**(要手数料)
↓購入方法URL
<https://t.pia.jp/guide/retail.jsp>
出演者(チケット販売のご協力者)

※当日は来場時のマスク着用等、感染対策へのご協力をお願い致します。
※切符の販売は250枚の予定です(定員500席)。お早めにご購入ください。
※当日は観覧者用駐車場はございません。
(身体障碍等、事情のある方は奈良能へお問い合わせ下さい。)

【主催】NPO法人奈良能 【後援】奈良県 奈良市観光協会 奈良テレビ放送(株)
奈良市文化振興補助事業(市民文化活動支援事業)



観世流 能
三 山
馬野 山中
正基 雅志

観世流 仕舞
龍 虎
観世 鏡之丞
観世 淳夫

班 女
塩谷 恵
大江 山
山下あさの



観世鏡之丞

山中雅志

なら燈花会能

競い合う美と力

令和四年 八月六日 田
奈良春日野国際フォーラム
薨 I・R・A・K・A

仕舞

班女

塩谷 恵

藤井 丈雄
井戸 良祐

大江山

山下あさの

馬野 正基
山田 薫

龍虎

観世 淳夫
観世 鏡之丞

山田 薫
井戸 良祐
生一 知哉
齊藤 信輔

解説

山下あさの

〈休憩〉

能

馬野 正基

山中 雅志

三山 江崎欽次朗

森山 泰幸
荒木 建作

杉 市和

間 善竹 隆平

塩谷 恵
観世 鏡之丞
生一 知哉

伊藤 裕貴
藤井 丈雄
山田 薫

齊藤 信輔
山階 彌右衛門
観世 淳夫

主催 特定非営利活動法人 奈良能

演者を変更させていただいた場合があります。あらかじめご了承ください。

今回の燈花会能は「競う」をテーマに能と見応えのある仕舞を取り上げました。おのおのの思いや、壮大な景色を想像して、お楽しみ下さい。

仕舞 班女(はんじょ) シテ遊女花子

中国の故事、成帝の寵に競い敗れた班婕妤(はんじょうよ)は秋に捨てられる夏の扇に我が身を例え、漢詩を読みました。美濃野上宿の遊女花子は逢えぬ京の恋人を慕って狂女となり、形見の扇を肌身して京の賀茂神社に流れ着きます。花子はそこで班婕妤になぞらえて班女と呼ばれてからかい囃され、恋人の扇を持ち、独り寝の寂しさを悲しんで舞い謡います。やがて、遊女花子はその扇が縁となり、恋人とめでたく再会します。

仕舞 大江山(おおえやま) シテ酒吞童子

源の頼光は大江山の鬼退治のため出家山伏に身をやつし、童子姿で隠れ住む鬼の家に、偽って入ります。童子は出家を大事にし、討手とも知らず酒宴を開き、問われるまま比叡山を追われ、大江山に潜む身の上を打ち明けます。へさて、お肴は何々ぞ。不穏な雰囲気秘めた酒宴が開かれ、その後童子は酔って閨に入りま。後場で酒吞童子は閨に踏み込まれ正体を現し、源の頼光と激しく戦い、哀れ討たれ果てます。

仕舞 龍虎(りょうこ) シテ虎 ツレ龍

能『龍虎』は雲を起す龍と、風を生む虎の、天地に渡る戦いを描いた楽しい演目です。今回は仕舞という形で観覧して頂く分、舞手の技量の高さと、観世流の太い謡を十分に感じて頂ける事と思います。伯仲した勝負を「竜虎相撃つ」と言いますが、地にどっしりと構える虎と、天空を激しく舞う龍の対決、仕舞『龍虎』はタイトルマッチを観る様に、ワクワクしてお楽しみ下さい。

能 三山(みつやま) ワキ良忍上人 前シテ里女 後シテ桂子 ツレ櫻子

僧良忍は大和の国で里女に大和三山について尋ねたところ、香久山に住む公成が、畝傍山の桜子と耳成山の桂子の女二人に二股を掛け、男が桜子になびき、桂子は池に身を投げたことを語り、里女は桂子であると名乗って消えます。良忍が弔いの念仏を唱えていると、桜子、続いて桂子の亡霊が現れ、嫉妬に憑かれてうわなり打ちを始めますが、良忍の念仏により恨みも晴れ、夢となります。後シテの嫉妬に狂う女への豹変ぶり、桜子と桂子の謡の対比、女二人のうわなり打ちの型をお見逃しなく。

能『三山』は宝生・金剛流のみの現行曲でしたが、観世流『三山』は流儀に残っていた謡本と型附を元に、八世観世鏡之丞静雪により、昭和五九年復曲上演されています(鏡仙会、八世観世鏡之丞静雪の年譜より)。その際、女二人が昇華される形に、増補改訂されています(テアトル五一六号より)。